

授業科目名	【G】	プレゼミⅡ	区分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
			必修					
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	議論の仕方を学ぶ			担当者	今井 康介			
授業概要	概要	<p>本プレゼミⅡでは、第一に、時事問題について学びます。第1回・第2回では、時事問題をいかなる視点で捉え、議論することができるか、私から講義します。第3回・第4回では、各自興味をもった時事問題をピックアップして持ち寄り、それらについて受講者全員で議論します。その後、時事問題に関してグループ研究をしてもらい、第5回から第10回ではその成果を発表(プレゼンテーション)してもらいます(グループ決めは、第1回の授業中に行います)。そのプレゼンテーションを受け、受講者全員で議論します。</p> <p>第二に、第11回から第15回では、法律問題(刑事法関連)のトピックスについてグループ研究・発表をしてもらいます。そのプレゼンテーションを受け、受講者全員で議論します。法律問題のトピックスは担当者(小野上)が決定し、各グループに割り振ります。</p>						
	到達目標	<p>①法学／法律学に興味をもつこと、②学習に必要な基礎的素養を身につけること、③疑問点・問題点を放置しない習慣をつけることを、最低限の目標として掲げ、加えて、④自ら「考える」力を身につけること、⑤積極的に議論に参加する力を身につけること、を目標とします。</p>						
履修条件	特になし。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	法学関連科目全般							
教科書	特に指定しません。							
参考書	弥永真生『法律学習マニュアル』(第4版)(有斐閣、2016年)							
評価方法	授業への参加状況(60%)、課題やレポートの提出状況(40%)などを評価します。定期試験は実施しません。特別の事情が無い限り、全回受講を求めます。受講しない状況が度重なる場合には、単位認定をしません。							
フィードバック方法	授業内で解説を行います。							
評価基準	授業を単に受講するのみならず、課題に対し積極的に取り組み、授業内容を習得するとともに、学習内容をよく理解した者は、その程度に応じて「S」または「A」とします。出席・参加度・課題達成度・学習内容理解に不足がある場合にはその程度に応じて「B」または「C」とし、出席・参加度・課題達成度・学習内容理解が著しく低い場合にはその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、全回欠席などのように、評価不能の場合には「F」とします。							

授 業 科目名	【G】 プレゼミⅡ	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		必 修				
授業内容	<p>【第1回～第2回】 第3回から本格的に議論をはじめめるために必要な事項をレクチャーします。</p> <p>【第3回～第10回】 報告者が、近時の新聞記事等の中から興味をもったトピックス(たとえば、消費税増税の是非など)について、①なぜ興味をもったのか、②その争点は何か、③自分はどのような意見を持っているのか、等を報告します。それを受けて、受講者全員で議論をします。</p> <p>【第11回～第15回】 第11回からは、新聞記事等からピックアップしたトピックスにとどまらず、刑事法関連の法律問題(たとえば、刑罰目的論、裁判員裁判、死刑に関する議論、少年犯罪、企業犯罪など)のトピックスについても、検討して行きます。</p>					
予習内容	<p>日常から「時事問題」に興味を持ち、「自分はどう考えるか」という姿勢をもってそれらの問題を検討しておいてください。 なお、各回の予習時間は120分を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>演習で学んだ内容を、自身でも再検討してください。 なお、各回の復習時間は120分を目安としてください。</p>					
その他	<p>①オンライン授業の受講に際しては、必ず授業動画を視聴して受講し、他方、②対面授業の出席の際には、時間厳守で出席し、それぞれ積極的・主体的に授業内容に取り組んで下さい。授業動画の未視聴・課題未提出や、遅刻・欠席・早退が度重なるなど学習態度に問題があると担当者が判断した場合、E評価またはF評価(単位不認定)を宣告する場合があります。</p>					